

2	3	政府の成長戦略
4	5	エネルギー政策
6		スマートコミュニティ
7		自動車・自動車部品
8		原動機
10		工作機械・鍛圧機械
11		ロボット・計測器
12		建機
13		電機
14		電子部品
16		化学
17		医薬
18		ゼネコン
19		空調・省エネ設備
20		IT・クラウド・ビックデータ
21		通信
22		人材育成
23		モノづくりの力

## INDEX

日本再生に向け、モノづくりの重要性が改めて問われている。昨年末の政権交代後、輸出企業を苦しめてきた過度な円高は正が進み、ようやく明るさを取り戻しつつある。日本経済、今後は実物経済が再生への歩調を強める必要がある。モノづくりの復権。日本経済の新たな成長にはモノづくりの向上が不可欠だ。安倍晋三政権の経済政策「アベノミクス」における本丸は成長戦略、金融・財政政策はビジネス環境を整備する手段のひとつ。成長を実現する上



日本の技術力の高さを証明する新幹線(E6系)

# 今こそ、日本の底力、発揮

## 世界の「インフラ」制す



原子力発電所での利用を想定した重量計測器搭載型移動ロボット

ケースが続出。米アップルのiPhone(アイフォン)などは好例だ。高い技術力だけでは勝負できない時代。米倉会長は「知識集約型は単品で強さを発揮してきたが今後はシステムの時代を迎える」と展望する。システム化でもっとも期待されるのがインフラ輸出。一部の試算では、2010-20年におけるアジアのインフラ投資額は約8兆に達する。電力・鉄道・道路・スマート

### 政官民 一体で挑む

出だが、実際には全体の約7割を資本財や素材が占める。細やかながら随所に発揮される工作機械や高機能素材は、日中韓サバイチチェーンの基盤。パッケージインフラと資本財の輸出は、車の両輪になる。低炭素社会実現が世界共通の課題となり、IT化が急速に進む現在、わが国のモノづくりの真価が問われている。モノづくりの復権こそが日本再生の近道である。



年内に初飛行を目指す国産航空機MRJ(実物大模型)

## テクノロジーの頂点へ。



川崎重工グループは、輸送用機器やエネルギー・環境、社会インフラ整備など、さまざまな分野でつねに先進のテクノロジーを開発。地球の、環境の明日を、力強く担い続けています。

川崎重工株式会社 www.khi.co.jp

川崎重工グループは「世界の人の豊かな生活と地球環境の未来に貢献する“Global Kawasaki”」という理念のもと、広範な領域における先端技術と、その総合力で、地球環境との調和を図りながら、持続可能な未来社会の実現に向けて、新たな価値を創造しています。陸・海・空はもとより、宇宙や深海にまで及ぶ製品・システムは、その成果といえます。川崎重工グループは、これからも自らのテクノロジーをより高いレベルへと磨き上げ、人と地球へのやさしさを次々にカタチにしています。

イラストは上から ①産業用ロボット ②海洋ポンプ ③ボーイング787ドリームライナー ④新幹線高速鉄道車両eSSET ⑤ホイールローダー ⑥モーターサイクル ⑦セメントプラント ⑧LNG船 ⑨発電用ガスタービン ⑩発電用ガスタービン

